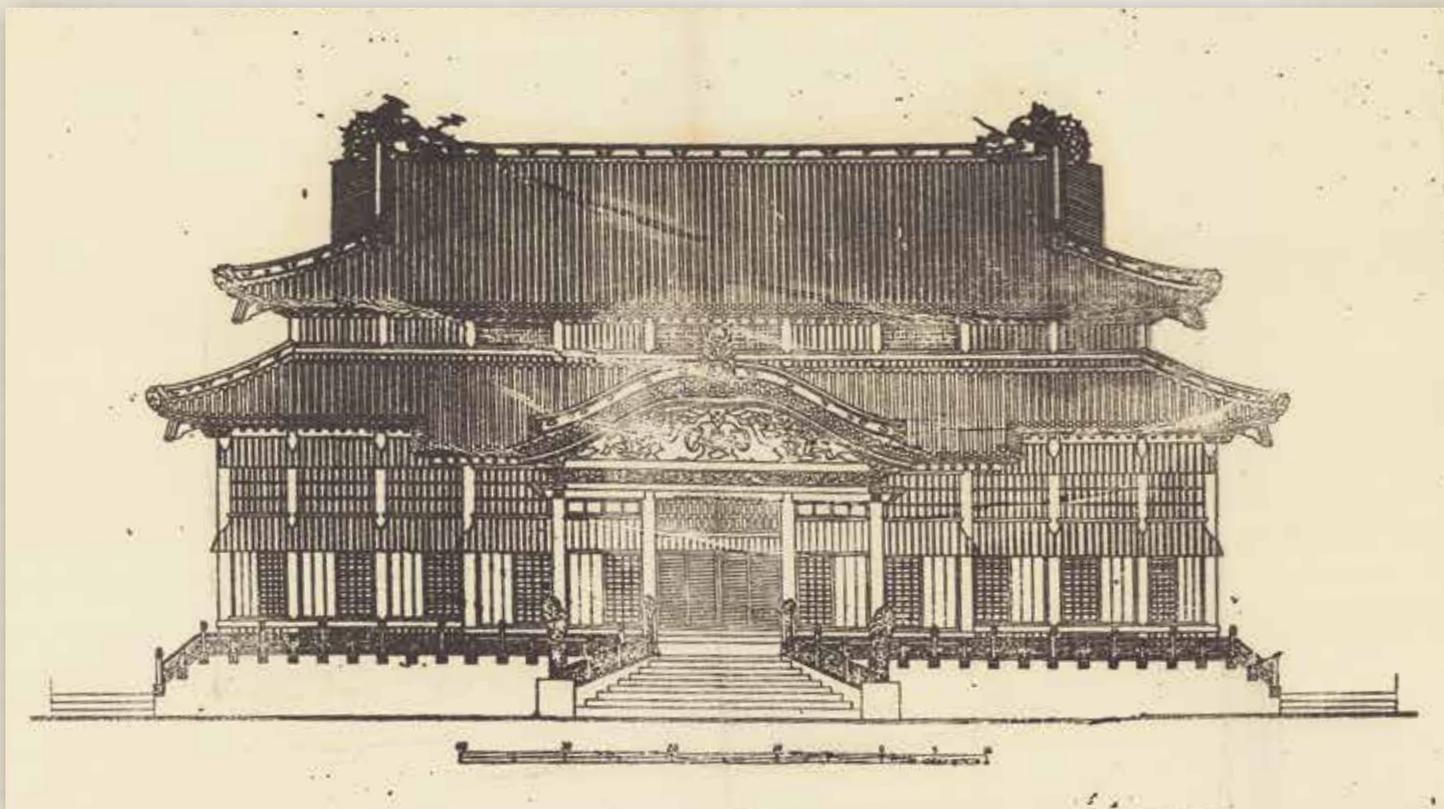


琉政だより

NO.14

2021年3月

首里城



文化財保護委員会の簿冊に綴られている首里城正殿の正面図 R00163107B, 28頁

首里城は琉球国王の居城であり、琉球国の行政の中心でもありました。
琉球政府文書デジタルアーカイブから首里城に関する文書を紹介します。



琉球政府の時代

<https://www3.archives.pref.okinawa.jp/GRI/>

琉球政府の時代では

沖縄がアメリカ統治下にあった戦後 27 年間の経験を次世代に繋ぐため

琉球政府の公文書等をアーカイブし公開しています

※琉球政府文書デジタルアーカイブはこちらのサイトからご覧になれます

琉球政府の時代 🔍



米国統治下の琉球政府の時代、沖縄戦で焼失した首里城は、どのように復元・活用されてきたのでしょうか。琉球政府文書デジタルアーカイブから、文化財保護委員会(文教局所管)の文書を中心に紹介します。

そのひゃんうたさいしもん しゅれいもん
園比屋武御嶽石門と守礼門の復元

沖縄戦によって、戦前に国宝に指定されていた文化財の多くが失われました。このうち、日本復帰前に琉球政府などの手によって復元されたものとして、園比屋武御嶽石門と守礼門があります。

園比屋武御嶽石門

国王が外出するときに安全を祈願した園比屋武御嶽は、1957年に琉球政府によって復元されました。『文化財要覧 1958年度版』の「園比屋武御嶽石門復元工事報告」には、「復元工事は現存する建築遺片等を精細に調査し又埋没したものは発掘して各部材の寸法形状等を調査して、復元図を作成し、それに基づいて工事に着手した」などと記されています。

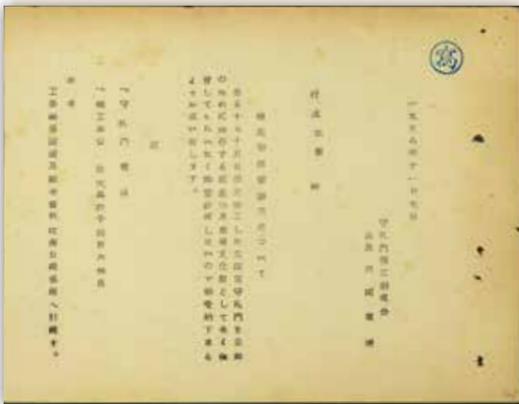
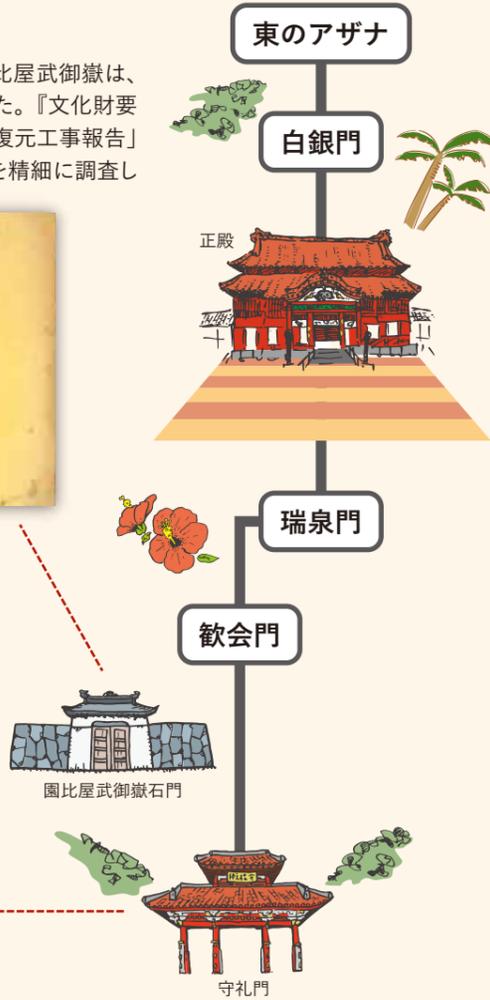
『文化財要覧 1958年度版』67頁

守礼門

守礼門は、1958年に守礼門復元期成会によって復元され、「元国宝守礼門を公共のために保存する記念物及重要文化財として永く保管してもらいたく」と琉球政府に無償譲渡されました。



写真番号057456



R00000915B, 450頁

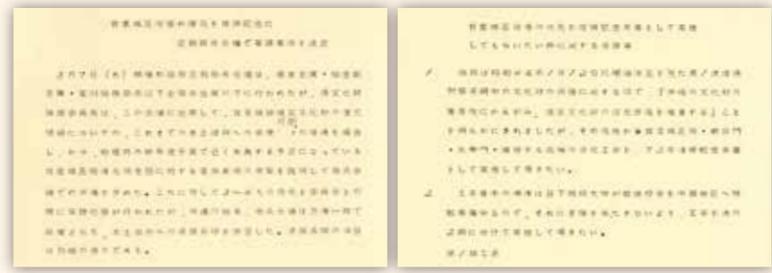
▶ **「復帰記念事業」として首里城正殿などの復元を目指す**

日本復帰を前に文化財保護委員会は、未復元のまま残されていた首里城正殿などを「復帰記念事業」として復元しようと働きかけます。

沖縄戦で失われてしまった戦前に国宝に指定されていた文化財の多くは、復帰を前に未復元のまま残されていました。文化財保護委員会は、1971年5月の局長会議において、首里城正殿をはじめとする「首里城跡被災文化財」の復元を琉球政府として日本政府へ要請するよう求めました。

名称	所在地	指定年月日	指定種別	指定国	備考
首里城正殿	首里	1931	建造物	日本	
首里城御守門	首里	1931	建造物	日本	
首里城石門	首里	1931	建造物	日本	
首里城中央門	首里	1931	建造物	日本	
首里城東御門	首里	1931	建造物	日本	
首里城西御門	首里	1931	建造物	日本	
首里城南御門	首里	1931	建造物	日本	
首里城北御門	首里	1931	建造物	日本	
首里城東山門	首里	1931	建造物	日本	
首里城西山門	首里	1931	建造物	日本	
首里城南山門	首里	1931	建造物	日本	
首里城北山門	首里	1931	建造物	日本	
首里城東門	首里	1931	建造物	日本	
首里城西門	首里	1931	建造物	日本	
首里城南門	首里	1931	建造物	日本	
首里城北門	首里	1931	建造物	日本	
首里城	首里	1931	建造物	日本	

R00163107B, 10頁



R00163107B, 2-3頁



局長会議用の説明資料では、正殿復元にあたっての問題点とそれへの回答がまとめられており、「琉大の中部地区への移転問題」や、再建した正殿の「使用目的」などが取り上げられています。また、「総工費 125 万ドル全額を本土政府予算に要請」する根拠については、文化財に指定している建造物の修理復旧について、国は総工費の最高 80%を補助していること、沖縄の場合には、終戦から 1970 年度まで被災文化財の復旧に対して日本政府の財政援助を受けられなかった「特殊事情」があることなどを挙げています。

R00163107B, 5-7頁

- 復帰後 ■ 1973年：屋良朝苗・沖縄県知事を会長とする「首里城復元期成会」結成
- 1984年：沖縄県が「首里城公園基本計画」策定
- 1989年：首里城正殿の復元工事がはじまる

首里城跡に建てられた琉球大学

右上の守礼門の写真で、門の間に見えるのは琉球大学の校舎です。1950年に開学した琉球大学は、首里城跡に建てられていました。



琉球大学周辺 龍潭池 写真番号002501

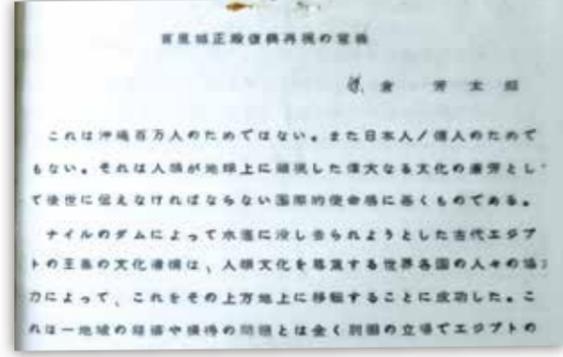
琉球政府の広報誌『琉球のあゆみ』に掲載された「沖縄今昔展」。その首里城正殿の回には、「百浦添」「御唐破風」とも呼ばれていた首里城正殿は、沖縄戦で「この地上から姿を消してしまった」、「沖縄一千年の歴史の中心であった首里城正殿-百浦添-御唐破風-という呼び名も昇天し、いま、そこには琉球大学本館が、新しい時代の歌声を高らかにひびかせている」と記されています。『琉球のあゆみ』1966年4月号, 7頁



鎌倉芳太郎「首里城正殿復興再現の意義」

首里城正殿が戦前に取り壊されそうになったとき、伊東忠太とともにその保存を強く訴え、取り壊しから救ったのが鎌倉芳太郎でした。文化財保護委員会の1971年『雑書』のなかに綴られた、鎌倉芳太郎「首里城正殿復興再現の意義」には、「これは沖縄百万人のためではない。また日本人 1 億人のためでもない。それは人類が地球上に顕現した偉大な文化の遺芳として後世に伝えなければならない国際的使命感に基づくものである」とあり、戦後もふたたび首里城正殿の復元を訴えました。

R00098307B, 21頁



※「琉球政府文書」は、1945-1972年までの米国統治下において住民側の行政機構として設立された琉球政府とその前身機関が作成した公文書です。

Rではじまる10桁の資料コードを使って資料を閲覧できます。「琉球政府の時代」>資料を検索する>コード検索>検索ボックスに資料コードを入力> をクリック

沖縄の象徴となった 復元後の守礼門

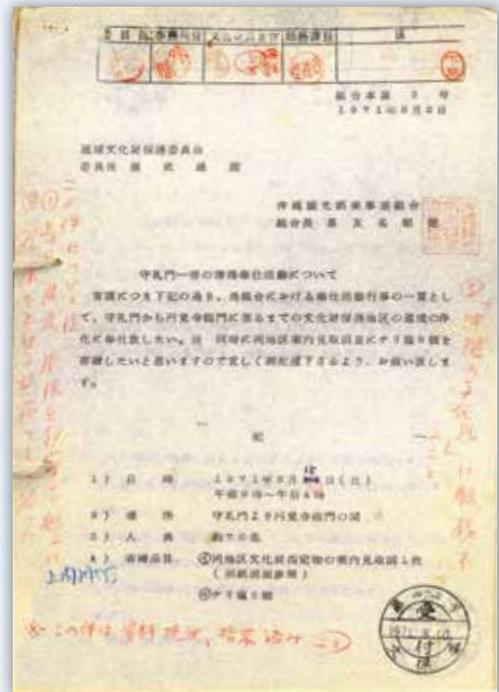
復元後の守礼門が、広く親しまれ、大切にされてきた様子がわかる資料を紹介します

1966年6月号の『琉球のあゆみ』掲載の「沖縄今昔展」。守礼門について、「沖縄を象徴する門である。戦後、これを復元したわれわれは、この門を建てることによって、あらゆる意味での心のささえをねがっていた。この門を仰ぐことによって民族としての誇りをかみしめようとした」とあります。

沖縄観光娯楽事業組合による1971年8月2日付「守礼門一帯の清掃奉仕活動について」。「守礼門から円覚寺総門に至るまでの文化財保護地区の環境の浄化に奉仕」するとともに、同地区に「案内見取図並にチリ籠5個を寄贈」とあります。



『琉球のあゆみ』1966年6月号, 7頁



R00098308B, 92頁

沖縄が日本に復帰する3日前の1972年5月12日、文化財保護委員会は、守礼門を重要文化財に指定しました。

『琉球政府公報』1972年第38号
(1972年5月12日)

文化財保護委員会告示第6号
文化財保護法(1956年6月26日立法第29号)第19条第1項の規定により、次の表に掲げる有形文化財を重要文化財に指定する。
1972年5月12日

文化財保護委員会
委員長 源 武 雄

名 称	員 数	構 造、形 式	所 在 の 場 所
旧首里城守礼門	1 棟	重層、入母屋造、木瓦葺、柱間 7.7m 軒高上層 5.92m 軒出初層 1.4m 棟 高 7.03m 建 坪 16.6㎡	那覇市首里当麻町

1972年5月12日 金曜日

あわせてご覧ください



『琉政だより』13号
文化財保護と博物館

米国統治下の沖縄で1958年に復元された守礼門は、現在でも沖縄を象徴する文化財・観光施設となっています。2000年に沖縄で開催されたサミットを記念して発行された2000円券の図柄にもなりました。